

演習問題 1.5 命題 1.7 を証明せよ。

線型写像の定義にある 2 つの性質の成立をチェックすればよい。(1) と (4) のみ示すので、残りは各自証明する事。

(1) 任意の  $x, y \in V$  に対し  $\text{id}(x + y) = x + y = \text{id}(x) + \text{id}(y)$  が成立する。また任意の  $x \in V$  と任意の  $\alpha \in K$  に対し  $\text{id}(\alpha x) = \alpha x = \alpha \text{id}(x)$  が成立しているので、 $\text{id}$  は線型写像である。

(4) 任意の  $x, y \in U$  に対し  $(T_1 + T_2)(x + y) = T_1(x + y) + T_2(x + y) = T_1(x) + T_1(y) + T_2(x) + T_2(y) = T_1(x) + T_2(x) + T_1(y) + T_2(y) = (T_1 + T_2)(x) + (T_1 + T_2)(y)$  が成立する。また任意の  $x \in U$  と任意の  $\alpha \in K$  に対し  $(T_1 + T_2)(\alpha x) = T_1(\alpha x) + T_2(\alpha x) = \alpha T_1(x) + \alpha T_2(x) = \alpha(T_1(x) + T_2(x)) = \alpha(T_1 + T_2)(x)$  が成立しているので、 $T_1 + T_2$  は線型写像である。

演習問題 1.6  $\text{Hom}(U, V)$  が線型空間になる事を示せ。

命題 1.7 で定義した線型写像の和及びスカラー倍が定義 1.4 の 8 つの条件を満たすことをチェックすればよい。

(1) (結合法則) 任意の  $T_1, T_2, T_3 \in \text{Hom}(U, V)$  に対し  $(T_1 + T_2) + T_3 = T_1 + (T_2 + T_3)$  を示す。そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $((T_1 + T_2) + T_3)(x) = (T_1 + (T_2 + T_3))(x)$  を示せばよい。実際  $((T_1 + T_2) + T_3)(x) = (T_1 + T_2)(x) + T_3(x) = (T_1(x) + T_2(x)) + T_3(x) = T_1(x) + (T_2(x) + T_3(x)) = T_1(x) + (T_2 + T_3)(x) = (T_1 + (T_2 + T_3))(x)$  となり成立している。

(2) (交換法則) 任意の  $T_1, T_2 \in \text{Hom}(U, V)$  に対し  $T_1 + T_2 = T_2 + T_1$  を示す。そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $(T_1 + T_2)(x) = (T_2 + T_1)(x)$  を示せばよい。実際  $(T_1 + T_2)(x) = T_1(x) + T_2(x) = T_2(x) + T_1(x) = (T_2 + T_1)(x)$  となり成立している。

(3) 命題 1.7(2) の線型写像  $O$  がこの性質を示す。任意の  $T \in \text{Hom}(U, V)$  に対し  $T + O = T$  を示す。そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $(T + O)(x) = T(x)$  を示せばよい。実際  $(T + O)(x) = T(x) + O(x) = T(x) + \mathbf{0} = T(x)$  となり成立している。

(4) 任意の  $T \in \text{Hom}(U, V)$  に対し  $T' = (-1)T$  とおく。これが (4) の性質をもつ事を示す。即ち  $T + T' = O$  を示す。そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $(T + T')(x) = O(x)$  を示せばよい。実際  $(T + T')(x) = T(x) + T'(x) = T(x) + ((-1)T)(x) = T(x) + (-1)(T(x)) = \mathbf{0} = O(x)$  となり成立している。

(5) (分配法則) 任意の  $T_1, T_2 \in \text{Hom}(U, V)$  と任意のスカラー  $\alpha \in K$  に対し  $\alpha(T_1 + T_2) = \alpha T_1 + \alpha T_2$  を示せばよい。そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $(\alpha(T_1 + T_2))(x) = (\alpha T_1 + \alpha T_2)(x)$  を示せばよい。実際  $(\alpha(T_1 + T_2))(x) = \alpha((T_1 + T_2)(x)) = \alpha(T_1(x) + T_2(x)) = \alpha(T_1(x)) + \alpha(T_2(x)) = (\alpha T_1)(x) + (\alpha T_2)(x) = (\alpha T_1 + \alpha T_2)(x)$  となり成立している。

(6) (分配法則) 任意の  $T \in \text{Hom}(U, V)$  と任意のスカラー  $\alpha, \beta \in K$  に対し  $(\alpha + \beta)T = \alpha T + \beta T$  を示せばよい。そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $((\alpha + \beta)T)(x) = (\alpha T + \beta T)(x)$  を示せばよい。実際  $((\alpha + \beta)T)(x) = (\alpha + \beta)T(x) = \alpha T(x) + \beta T(x) = (\alpha T)(x) + (\beta T)(x) = (\alpha T + \beta T)(x)$  となり成立している。

(7) 任意の  $T \in \text{Hom}(U, V)$  と任意のスカラー  $\alpha, \beta \in K$  に対し  $(\alpha\beta)T = \alpha(\beta T)$  を示せばよい。

そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $((\alpha\beta)T)(x) = (\alpha(\beta T))(x)$  を示せばよい。実際  $((\alpha\beta)T)(x) = (\alpha\beta)T(x) = \alpha(\beta T(x)) = \alpha(\beta T)(x) = (\alpha(\beta T))(x)$  となり成立している。

(8) 任意の  $T \in \text{Hom}(U, V)$  に対し  $1T = T$  を示せばよい。そのためには任意のベクトル  $x \in U$  に対し  $(1T)(x) = T(x)$  を示せばよい。実際  $(1T)(x) = 1T(x) = T(x)$  となり成立している。

演習問題 1.7 上の事実の残りの部分を証明せよ。

(2) 線形解析で学んだ様に  $T_A : K^n \rightarrow K^m$  が同型写像なら 2 つのベクトル空間  $K^n, K^m$  の次元は等しくなり,  $m = n$  が出る。よって  $m \neq n$  のとき  $T_A$  は同型写像にならない。よって  $m = n$  を仮定する。

最初に  $A$  が正則行列のとき  $T_A$  が同型写像である事を示す。 $A$  は正則行列であるから  $A$  の逆行列  $A^{-1}$  が存在する。 $T_A(x) = T_A(y)$  とすると,  $Ax = Ay$  となっている。よって左から  $A^{-1}$  をかけて  $A^{-1}Ax = A^{-1}Ay$  となり,  $Ex = Ey$  即ち  $x = y$  となり  $T_A$  が一対一写像である事が分かる。次に上への写像である事を示す。任意の  $y \in K^n$  に対し  $x = A^{-1}y$  とおくと  $T_A(x) = Ax = A(A^{-1}y) = (AA^{-1})y = Ey = y$  となり  $T_A$  が上への写像である事が分かる。

逆に  $T_A$  が同型写像であると仮定する。 $e_1, \dots, e_n$  を  $K^n$  の基本ベクトルとする。同型写像なので各  $e_i$  ( $i = 1, \dots, n$ ) に対し  $e_i = T_A(b_i)$  となるベクトル  $b_i$  が存在する。 $B = (b_1 \cdots b_n)$  とおくと,  $AB = A(b_1 \cdots b_n) = (Ab_1 \cdots Ab_n) = (T_A(b_1) \cdots T_A(b_n)) = (e_1 \cdots e_n) = E$  となり,  $B$  が  $A$  の逆行列である事が分かる。よって  $A$  は正則行列である。

(3)  $x = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix}, y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix} \in U$  とし,  $T(x) = T(y)$  とする。 $T(x) = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \end{pmatrix}, T(y) =$

$\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix}$  なので  $x_1 = y_1, x_2 = y_2$  が成立している。 $x, y \in U$  という事から  $x_1 + x_2 + x_3 = 0, y_1 + y_2 + y_3 = 0$  が成立している。よって  $y_3 = -y_1 - y_2 = -x_1 - x_2 = x_3$  となり,  $x = y$  即ち  $T$  は一

対一写像である。任意の  $y = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$  に対し  $x = \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ -y_1 - y_2 \end{pmatrix}$  とすると  $x \in U$  であり,

$T(x) = y$  となる。よって  $T$  は上への写像である。

(4) 結論は  $A$  が正則のとき  $T$  及び  $S$  は同型写像であり, 正則でないとき  $T$  及び  $S$  は同型写像でない。 $T$  に関してのみ証明する。 $A$  が正則のとき  $B$  を  $A$  の逆行列とする。 $X, Y \in M(2; K)$  に対し  $T(X) = T(Y)$  が成立しているとする。 $AX = AY$  に左から  $B$  をかけると  $B(AX) = B(AY)$  より  $(BA)X = (BA)Y$  即ち  $X = Y$  を得る。よって  $T$  は一対一写像である。任意の  $Y \in M(2; K)$  に対し  $X = BY$  とおくと  $T(X) = AX = A(BY) = (AB)Y = EY = Y$  となり上への写像である事が分かる。以上により  $T$  は同型写像である。

逆に  $T$  が同型写像のとき  $A$  が正則である事を示す。 $E \in M(2; K)$  なので, ある行列  $B \in M(2; K)$  が存在して  $E = T(B)$  となる。このとき  $E = T(B) = AB$  なので,  $B$  は  $A$  の逆行列である。よって  $A$  は正則行列である。

(5)  $D : \mathbb{R}[x] \rightarrow \mathbb{R}[x]$  は上への写像ではあるが, 一対一写像ではない。 $D(1) = D(0)$  だが  $1 \neq 0$  なので一対一でない事は分かる。任意の  $f(x) = a_n x^n + \cdots + a_1 x + a_0 \in \mathbb{R}[x]$  に対し  $F(x) = \frac{a_n}{n+1} x^{n+1} + \cdots + \frac{a_1}{2} x^2 + a_0 x$  とおくと,  $D(F(x)) = f(x)$  となるので上への写像になる。

$D : \mathbb{R}_n[x] \rightarrow \mathbb{R}_n[x]$  は上への写像でもないし, 一対一写像でもない。 $D(1) = D(0)$  かつ  $1 \neq 0$

は前と同じである。 $D(g(x))$  の次数は  $g(x)$  の次数から 1 を引いたものなので、 $D(g(x))$  の次数は  $n-1$  以下である。 $f(x)$  を次数  $n$  の多項式とすると  $D(F(x)) = f(x)$  となる多項式  $F(x)$  は  $\mathbf{R}_n[x]$  には存在しない。

(7)  $\mathbf{a} = \{a_i\}, \mathbf{b} = \{b_i\}$  を  $a_1 = 0, b_1 = 1$  とし、 $i \geq 2$  にたいしては  $a_i = b_i = 0$  とする。 $\mathbf{a} \neq \mathbf{b}$  ではあるが  $S(\mathbf{a}) = S(\mathbf{b})$  となっているので  $S : \text{Seq}(\mathbf{R}) \rightarrow \text{Seq}(\mathbf{R})$  は一対一ではない。任意の  $\mathbf{b} = \{b_i\} \in \text{Seq}(\mathbf{R})$  に対し  $a_1 = 0, a_i = b_{i-1} (i \geq 2)$  とおくと  $S(\mathbf{a}) = \mathbf{b}$  となるので、 $S$  は上への写像である。

$S' : \text{Fib} \rightarrow \text{Fib}$  は同型写像である。まず一対一。 $\mathbf{a} = \{a_i\}, \mathbf{b} = \{b_i\} \in \text{Fib}$  とする。 $S'(\mathbf{a}) = S'(\mathbf{b})$  とすると  $i \geq 2$  に対し  $a_i = b_i$  が成立する。Fib に入る事から  $a_1 + a_2 = a_3$  及び  $b_1 + b_2 = b_3$  が成立している。よって  $a_1 = a_3 - a_2 = b_3 - b_2 = b_1$  から  $\mathbf{a} = \mathbf{b}$  が分かる。次に上への写像。任意の  $\mathbf{b} = \{b_i\} \in \text{Fib}$  に対し  $\mathbf{a} = \{a_i\}$  を次のように定義する； $i \geq 2$  に対し  $a_i = b_{i-1}, a_1 = a_3 - a_2$ 。このとき  $\mathbf{a} \in \text{Fib}$  であり、 $S'(\mathbf{a}) = \mathbf{b}$  となる。

(8) ここでは  $X = \mathbf{R}$  として考えよう。 $D(1) = D(0)$  かつ  $1 \neq 0$  なので  $D$  は一対一でない。また任意の  $f(x) \in C^\infty(\mathbf{R}; \mathbf{C})$  に対し  $F(x) = \int_0^x f(x)dx$  とおくと  $D(F) = f$  となるので、 $D$  は上への写像である。

$S$  は一対一であるが上への写像ではない。 $f(x), g(x) \in C^\infty(\mathbf{R}; \mathbf{C})$  に対し  $S(f) = S(g)$  とすると、任意の  $x \in \mathbf{R}$  に対し  $xf(x) = xg(x)$  である。 $x \neq 0$  のときは  $x$  で割る事で  $f(x) = g(x)$  が分かる。また  $f(0) = \lim_{x \rightarrow 0} f(x) = \lim_{x \rightarrow 0} g(x) = g(0)$  から  $f = g$  が得られる。 $S$  が上への写像であるとして、定数関数 1 に対し  $S(f) = 1$  となる  $f(x) \in C^\infty(\mathbf{R}; \mathbf{C})$  が存在する。このとき任意の  $x \in \mathbf{R}$  に対し  $xf(x) = 1$  となる。所が  $x = 0$  を代入して  $0 = 1$  を得るので矛盾。よって  $S$  は上への写像でない。